

豊かな社会常識 人間味あふれた技術者に

JAMCAソーシャル検定委員会委員長 齋木 寛治



ソーシャル検定試験については、2005年10月1日発行のJAMCAニュースNo47に、拙稿「ソーシャル検定試験」、また、2007年4月1日発行の同No53には「ソーシャル検定試験の実施に向けて」と題して、中央自動車大学の廣川校長先生も寄稿されていますが、今年9月8日に、第1回ソーシャル検定試験を実施するにあたり、まだ十分に認識していただけてない点も多くあるかと思えます。そこで、ソーシャル検定試験の目的、試験内容の傾向及びポイントについて述べさせていただきます。

ソーシャル検定試験 傾向とポイント

第1回 9月8日実施

試験の評価観点

今回第1回のソーシャル検定試験が実施されます。一般的な常識を逸脱するとマナー違反になりますから、出来る限り多くの情報・知識は知っておいた方がよいので、知識の暗記は重要視しないながらも何題かは出題されることになります。

評価観点は、1)意欲・関心・姿勢・態度、2)基本知識の理解、3)応用力・思考力・判断力、4)表現力・行動力・実習技能などになり、これらに関連した問題が90分の時間内で40～50問出題される予定です。今回の試験では4択または5択の択一問題が予定されています。今後の正解率や採点評価などにより、○×式や記述式も導入が検討されています。

識やマナーの部分で社会人の諸先輩方や取引先からダメと思われるようになってもらうことです。実社会での経験なしにマナーを身に着けることは困難なようにも思われますが、相手への気配りやマナーはどうあるべきか、と先に考えただけでもプラスであり、マナーを知識として知っているだけでも、失敗したときの反省で原因を理解できるかもしれません。少しでも確実に前進することが成功への第一歩となることでしょう。座ったまま挨拶したり、ポケットに手を入れて人の話を聞いたり、タメ口が普通、など思っている勘違いを減らせれば、ソーシャル検定の意義があったと考えます。

テキスト読み込んで

試験のポイントとしては、各問題の点数が重要性や難易度により変わっているところです。「対面した相手に対してどのような対応や行動がとれるか」が中心課題となっているので、その部分をよく理解しておくことが大事になるかもしれません。

第1回試験では、満点に対して70%の正解率で合格になるので、比較的易しい試験になるかもしれませんが、相手に不快感を与えたり、迷惑をかけたりする行為を避けることが、理論だけでも理解できていないと合格は厳しいかもしれません。テキストをよく読み、理解していればソーシャル検定試験の合格は見てくると思われます。

年1回の一斉同日試験が行われる予定ですが、合格率や受験



ソーシャル検定テキストの表紙

者の状況に応じて再試験や年2回の試験実施なども検討される余地があります。目的はあくまでも、資格を取得し技術と知識をもって社会に出た若者が、常

人との接するときの気配りを重視しています。『あれはダメ、こうしてはいけない』『必ずこのようにしなさい!』といった押し付けに対し、抵抗感から覚える意欲が半減してしまう若者もいるかもしれません。状況に合った考え方で的確な行動がとれることを目指します。

大事な4つの点

大事な点として、1. 安心、2. 安全、3. 誠実、4. 快感などがあげられます。相手が安心感を抱くことは対面するときの基本です。『この人なら変な言動はしない』『決して危害を与えられるような感じはない』といった印象に加え、『まじめで常識を逸脱しない人物と思える』『周囲のことを常に考え、迷惑をか

人への気配りに重点

ビジネス社会は競争社会であるのに、競うことや順位をつけることを避ける傾向にある近年では、勝ち抜く力を発揮する方法が見いだせない若者が増えていくことが危惧されています。目的をもって知識や技術を習得したにもかかわらず、コミュニケーション能力が身につけなければ、仕事をする上で目標に対する成果を挙げるのが難しく、また困難な状況を乗り越えていくことも出来ません。そこで豊かな人間性を身につけ、マナーを知り、コンプライアンスを理解することが、社会と調和するために重要になってくるわけです。

マナーという、若者に対して厳しく教えるようなイメージもありますが、ソーシャル検定では、しきたりを覚える知識の要求といったことより、

けるようなことをしない』などの感じを相手に抱かせることが信頼を招くことにつながります。

そこでテキストは「相手にどのように感じてもらうのが、自分の言いたいことを聞き入れてもらいやすくなるのか」という考え方がベースになっています。自分が正しいと思って理解したことを相手に伝え、どんな状況であれ、頑なに守り続けて押し通すことではないことを知るのがひとつ。もう一つは「相手のためにやってあげる」といった発想にならないこと。自分のためにやることでも、相手や周囲に対して気配りが必要だということを知ってもらうことです。

「働こう」という気持ちがあれば人生がどうでもよいとか、失敗しても気にしないなどと思う人は少ないはず。「自分のため」に利己主義とか利益追求とかを考えて否定するよりも、相手や周囲に対して気配り、思いやり、敬意を示すことを、自発的に考えて行動できることが、善いマナーになるのです。